

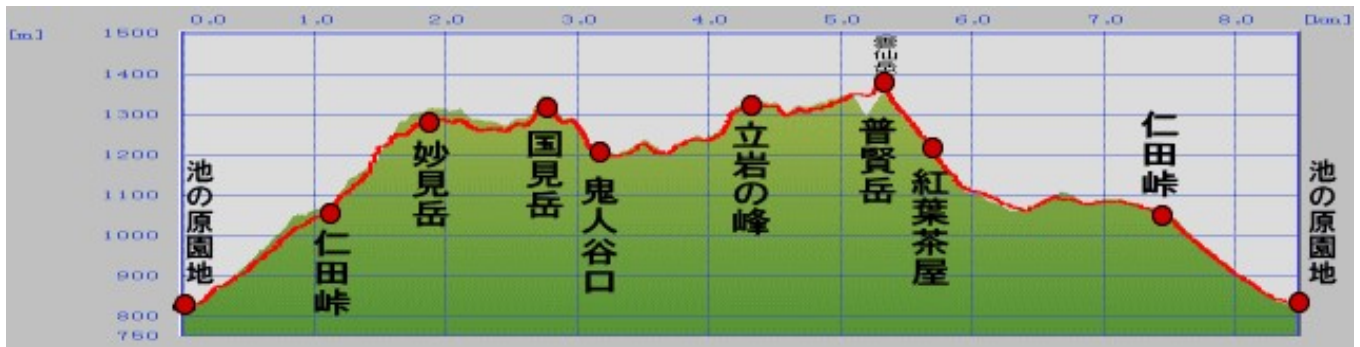


雲仙岳は普賢岳、国見岳、妙見岳の3座を中心とした山群でどれも1300mを越える高峰で、春にはミヤマキリシマが咲き誇り、秋には紅葉、冬場には霧氷と四季折々に楽しめる山でもある。

アクセス

登山口がある仁田峠へは小浜から国道57号線を雲仙に向けて上がっていき、温泉街を過ぎて仁田峠登山道路を通り仁田峠に行ける。ただし、ミヤマキリシマの開花時期は観光客が多く、仁田峠の駐車場に長時間車を止めることが出来ず、マイカーで来た登山者は歩行時間で30~40分下にある「池ノ原園地」からのスタートとなる。雲仙の温泉街を過ぎ、その先の国道389号線を少し上がったところに「池ノ原園地」の駐車場がある。





参考コースタイム 池の原園地～30分～仁田峠～35分～妙見神社～30分～国見岳～25分～鬼人谷口～30分～鳩穴分かれ～40分～普賢岳～20分～紅葉茶屋～40分～仁田峠～30分～池の原園地

参考歩行時間 4時間40分

ミヤマキリシマが見頃の5月下旬に合わせて普賢岳に登る。朝7時半頃に池ノ原園地をスタート。仁田峠までの上りは約30分ほど、よく整備された道を黙々と上がっていき、まだ車もまばらな仁田峠の駐車場に出る。



池ノ原園地・駐車場



仁田峠

仁田峠から妙見岳、国見岳、普賢岳の3座を縦走しながら周遊する。これは時計廻り、反時計廻りのどちらを進んでも行くことが出来、登山者はそれぞれ使い登ってはいるが、私個人としては歩行程の後半に鬼人谷口から国見岳分岐へにある急登を上るのは酷なので、時計廻りに登っている。

仁田峠より案内に従い、まずは妙見岳へ、右手にロープウェイを見ながら登っていきます。

仁田峠のミヤマキリシマは満開なもの、やや枯れ始めてきたもの、色褪せたものと様々。ピークをやや過ぎていたみたいだが、これが標高が高い国見岳へと向かって登っていくと見事に咲き誇るミヤマキリシマが目飛び込んでくる。

ロープウェイの駅前の広場より妙見神社へ進む。そこから国見岳分岐までは尾根歩きとなる。ここは雲仙岳の外輪山にあたる。この時期の縦走路はミヤマキリシマのトンネルも見られ楽しめます。

また国見岳が近づくにつれ、尾根道からはピンク色に染まった国見岳の山肌の絶景が望める。

これが紅葉時期になるとまた違った絶景へと変貌し、パステルカラーに染まった紅葉が見られる。



ミヤマキリシマのトンネル



紅葉時期の雲仙

縦走路途中にある国見岳分岐より国見岳へ寄ってみよう。ここから往復 20~30 分ほどで行ける。国見岳山頂へは鎖場もあり慎重な登りとなり、また登山者が多い時には離合で待つこともあるが、それだけ苦労して上った分、山頂からの素晴らしい展望というご褒美も待っています。ポッコリ尖った平成新山。また上り途中からはミヤマキリシマとのコラボも望めます。



ミヤマキリシマでピンク色の山肌に染まる国見岳



国見岳山頂

分岐まで戻り再び縦走を進める。鬼人谷口までは急斜面の下り、国見岳を振り返ると改めてミヤマキリシマの絶景を感じる。また左側の山肌は紅葉時期がまた素晴らしい。秋にも満喫出来るコースである。鬼人谷口は新ルートへの入口・分岐。この先の紅葉茶屋からも普賢岳へは登れるが、ここは 2012 年に出来た新ルートを通ってみよう。道はよく整備されてて、あちこちに真新しい案内板がある。それぞれ番号がふってあり、新ルート入って最初の番号⑤番の「西の風穴」に出会う。「風穴」と書いて「あざあな」と読む。夏場は四角い穴から冷たい冷気が出て自然の冷蔵庫です。さらに 440m ほど進んで行くと、またまた風穴に出会う。ここは「北の風穴」でベンチも設置されています。ここでは展望も望める。左斜めに見える頂きにはホークスロックと呼ばれる鷹の形をした大岩が見えます。いろんな楽しみ方があります。



鬼人谷口。新ルートの入口になる。



北の風穴

「鳩山分かれ」に出会い、ここから一方通行の道へと入る。普賢岳側からこちらへは行くことが出来ません。また、ここから急登になるので暫し休憩をとり、ここから観える眺望を楽しみむといい。国見岳から九千部岳の山々、有明海から島原半島北部まで広く望めます。

「鳩山分かれ」から急登で一方通行・・となっていたので「ものすごく狭い道」とか「やせ尾根」とか危ない道をイメージをしていたが、思った以上に通りやすく、よく整備されている。

小高い丘の展望台となっている「立岩の峰」からは平成新山の溶岩ドームが間近に見え、迫力があります。溶岩ドームを左手に見ながら登山道を進んでいき、⑮番の展望箇所から普賢岳溶岩ドームが一望できた。



⑮番の展望箇所より普賢岳溶岩ドームを望む

アップダウンを繰り返し上っていくと⑯番「霧氷沢分かれ」につく。一方通行はここで終了。

普賢岳へはここを右へ進んで行くが、左側 50m 先にある「霧氷沢」へ寄ってみる。

霧氷沢は平成新山から一番近いところ。冬場には文字通り霧氷も見られる。またここへ下る途中には風穴もあり、ひやっと冷気も感じる。ミヤマキリシマが咲く 5 月下旬でも風穴に雪が残っているのが見られた。またヒカゲツツジもこの辺に咲くので楽しみいっぱいのところ。

再び「霧氷沢分かれ」まで戻り、上がっていくと普賢岳山頂直下で普賢神社の祠がある小広場に出会う。案内に従いラストの上りで普賢岳山頂につく。

山頂からは平成新山がど真ん前に見える。私的にはここから見る平成新山が一番良く思えます。

また妙見岳から国見岳、ずっと通ってきた尾根がここからは望めます。春はミヤマのピンク色、秋は紅葉色、素晴らしい光景が見られる。



普賢岳山頂

霧水沢より平成新山を望む

普賢岳から紅葉茶屋までは急斜面の下り。所々滑りやすいところもあるので注意しながら下ります。紅葉茶屋から「あざみ谷」を通り、ロープウェイがある仁田峠まで戻りますが、あざみ谷までは長～い下りが続きます。緩んだとこの広場が「あざみ谷」になる。アップダウンの道になり仁田峠につく。早朝まだスペースが残ってた仁田峠の駐車場も下山する頃には満車状態で観光客などで賑やかになっていた。

